

市民の声

生涯学習市民開放プログラムを受講して

田島 紀男

昨年、42年の勤務を終え停年退職いたしました。第二の人生のスタートにあたり色々と考えていましたが、高校時代の同級生の集まりでこのプログラムのことを知り、受講を決めました。平成19年度前期は「日本史」を第1希望に申し込みましたが、折からの継体天皇即位1500年記念ブームで定員外となり、「日本文学」と「西洋史A」を、後期は「西洋史B」と「政治学B」を受講しました。いずれの授業も担当の先生が分り易く、丁寧に教えてくださり楽しく受けることができました。今期は念願になって「日本史」と「東洋史」を受けています。約50歳程違う若い学生諸君に混じってパワーをもらいながら、「変なオジサン」と言われないよう努力しているつもりです。

小学、中学、高校、大学と進むにつれて交友の輪も広がり、視野も広がってくると思いますが、県外から来られている学生さんには福井県人として、福井の風土、歴史にふれていただきたいと思っています。継体天皇から南北朝時代の新田義貞公、戦国時代、一乗谷の朝倉家七代、柴田勝家公、越前松平藩祖・結城秀康公、幕末の名君松平春嶽公とそれを取り巻く俊英達。福井は永平寺、東尋坊だけでなく名所旧跡も沢山あります。点から線、線から面へととらえればいろんなことが見えてきて興味も深まるとおもいます。

昨今「品格」という言葉が流行していますが、「大学生の品格」とは、と考えますとどうなるでしょうか？最高学府に学ぶ大学生として当然のことながら、専門知識の取得が挙げられると思いますが、最も重要なことは、教養、知性、人格の形成、ではないでしょうか。しかし残念ながら、一部の人ではありますが授業態度の悪さには愕然とします。授業開始後の前の入り口からの入室、しかも無会釈、前の座席での堂々とした居眠り、隣席とのダベリング、さすがに小教室なので携帯電話の使用はありませんが、かかる光景を何度か目にしました。それを注意される先生に心から敬意を表しながら自分自身にもどかしさを感じています。私も社会人時代、新入社員のマナーについて考えさせられましたが、それは本人が悪いのではなく幼少期の家庭内教育にあるのではと教えられました。新入社員の中でも自家営業の子はどこか違うことがありました。子供は親を見て育つ、部下は上司の背中を見て育つともいわれます。相手の立場に立って考える、相手を思いやることが今の若者は不得手のようです。そういう人が親となって子供の躰が出来てしまうのでしょうか。願わくは、愛情を持って人格形成の為の場をつくっていただければとおもっております。受講者の身での僭越をお許し下さい。